

郷土の星座伝承新発見事業についての報告

片野田 裕亮*

Report on the Project to Discover the Traditional Culture Including Astromy in Kagoshima

KATANODA Yusuke*

Abstract: In this project, we investigated and summarized traditional culture, including astronomy. We then introduced this traditional culture to various schools. We also held a special exhibition introducing the traditional culture of astronomy.

キーワード：星，星座，天文教育，郷土教育，プラネタリウム

Key Words : star, constellation, astronomy education, local education, planetarium

はじめに

当館プラネタリウム室では、開室以来、星にまつわる伝承や星の和名の紹介などを盛り込んだオリジナル番組を制作し、県内外の方々に天文分野の教育普及活動を行ってきた。これまで、番組内で紹介してきた伝承文化は、20年以上前に、当時の天文担当学芸主事が収集したものである。今後も郷土に根ざした番組を制作していくためには、現在当館で把握している伝承文化だけでは限界がある。

また、現在把握している伝承文化についても、引用元が不明なものがあつたり、内容が曖昧なものがあつたりするため、今後も活用していくためには、引用元の確認や正しい内容の把握が必要である。

そこで、星にまつわる伝承文化を新たに収集するとともに、現在把握している伝承文化の引用元や内容について再確認するための調査を実施した。また、これまで収集してきた資料や、今回の事業で新たに収集した資料をもとに、県内各地の小・中学校において、星空観察会や出前授業を実施した。さらに、企画展「鹿博プラネタリウム物語」と題し、当館のプラネタリウムの歩みとともに、星にまつわる伝承文化を紹介する企画展を実施した。

今回は、本事業で実施したこれらの成果について報告する。

成果報告

1 星にまつわる伝承文化の収集について

(1) 調査期間

令和6年6月26日から10月3日

(2) 調査地

種子島，黒島，喜界島，奄美大島（瀬戸内町，宇検村），屋久島

(3) 調査方法

- ① 図書館や社会教育施設における文献からの資料収集
- ② 地域の伝承文化に詳しい方や漁師への聞き取り調査

(4) 調査の実際

① 種子島（令和6年6/26～6/28実施）

種子島では、種子島総合開発センター「鉄砲館」、西之表市立図書館、中種子町中央公民館図書館、南種子町立図書館において、文献からの資料収集を実施した。また、各市町村教育委員会社会教育課や種子島漁協、南種子漁協から紹介していただいた方々に聞き取り調査を実施した。

調査結果を表1、表2に示す。

* 鹿児島県立博物館：〒892-0853 鹿児島市城山町1番1号

表 1 文献から収集した資料

資料名 [関連事項]	引用文献
七夕さん（西之表） [七夕・伝承]	下野敏見（1980） 昔話研究資料叢書 17 種子島の昔話 I 三弥井書店
川柱（一）（中種子・女州） [星の木物語・伝承]	
川柱（二）（中種子・油久） [星の木物語・伝承]	
ハタモーリ [七夕・伝承]	下野敏見（1965） 西之表市の伝説 熊毛文学会
掛けの魚 [七夕・伝承]	下野敏見（1969） タネガシマ風物誌 鉄砲伝来の島 未来社
阿久根千代女（西之表・横山） [七夕・伝承]	
浜辺の名月 [十五夜・行事]	
エーミョージョー [宵の明星・方言]	植村雄太郎（2001） 種子島方言辞典 武蔵野書院
ヨアケノミョージョー [明けの明星・方言]	
スバリ [プレアデス星団・方言]	
クソボシ [流星・方言]	南種子地名研究会 南種子の方言

表 2 漁師への聞き取り

聞き取り内容 [関連事項]	調査対象
東の空に三星が上ってくると夜が 明けるので、これをヨアケボシと呼 んだ。 [オリオン座・方言]	中種子町 (80 歳)
星が非常にきれいな時は、突風が 吹いたり、雨が降ったりする。 [伝承]	
葛を芯にして作った綱を引っ張っ て地域をまわり、その後綱引きを行 った。 [十五夜・行事]	

種子島では、文献から伝承6話、方言4語、行事1つの資料を得ることができた。

また、西之表市及び中種子町の社会教育課から紹介していただいた方々への聞き取りからは、情報を得られなかった。

漁師への聞き取りでは、中種子町の漁師から、伝承1話、方言1語、行事1つの情報を得ることができた。西之表市では、80代と70代の2名の漁師に聞き取りを実施したが、情報は得られなかった。また、南種子町で話を聞いた90歳の漁師からも、情報は得られなかった。

- ② 黒島（令和6年7/17～7/19実施）
- 黒島では、三島村立三島大里学園図書室、三島村立三島片泊学園図書室において、文献からの資料収集を実施した。また、三島片泊学園の職員から紹介していただいた方に聞き取り調査を実施した。
- 調査結果を表3に示す。

表 3 地域の伝承に詳しい方への聞き取り

聞き取り内容 [関連事項]	調査対象
大里地区の綱は、以前は中学校2年生以下の子どもが茅を編み、それをたくさんより集めて作っていた。今は竹を裂いたもので綱を作って綱引きをしている。 [十五夜・行事]	大里 (69 歳)
片泊地区では、茅を編んで龍の頭の形を作り、それを藁でできた綱に巻き付けて綱引きの綱として完成させる。 [十五夜・行事]	

黒島では、学校の図書室にある郷土資料からは情報が得られなかったが、地域の伝承文化に詳しい方から、行事2つの情報を得ることができた。片泊地区の漁師にも話を聞いたが、情報は得られなかった。

- ③ 喜界島（令和6年8/19～8/21実施）
- 喜界島では、喜界町図書館において、文献からの資料収集を実施した。また、喜界町埋蔵文化センターから資料を提供していただいた。
- さらに、喜界漁協、喜界町教育委員会社会教育課から紹介していただいた方や喜界島サンゴ礁科学研究所において、聞き取り調査を実施した。
- 調査結果を表4、表5に示す。

表 4 文献から収集した資料

資料名 〔関連事項〕	引用文献
天人女房 (一) 七夕の由来 (阿伝) (二) 天女の遍歴 (佐手久) 〔七夕・伝承〕	岩瀬博 他(2006) 琉球の伝承文化を 歩く 3 喜界の伝説・昔話 三弥井書店
羽衣の伝説 〔七夕・伝承〕	喜界町教材開発委員 会編集 喜界町の民話 喜界町教育委員会発行
奄美の天女譚 伝説と信仰 (蒲生) 〔七夕・伝承〕	畠山篤 (1986) 徳之島調査報告書 (4) 沖縄国際大学南島 文化研究所
棚機 七夕 〔七夕・行事〕	喜界町郷土教材開発 委員会 (1989) 郷土教育〈第4集〉 喜界町教育委員会
プシ 〔星・方言〕	岩倉市郎 (1977) 喜界島方言集 株式会社国書刊行会
プシヌッス 〔隕石、流星・方言〕	
アートウチ ヨーファー アートウチ ヨーワー 〔暁の明星・方言〕	
ヨーネー ヨーファー ヨーネー ヨーワー 〔宵の明星・方言〕	
プリフシー 〔プレアデス星団・方言〕	
アブラゴー 〔オリオン座の三星・方言〕	
ナナトッブシ 〔北斗七星・方言〕	
ミツリプリ 〔オリオン座・方言〕	
プスクーバイ 〔サソリ座・方言〕	
ポーチ プシ 〔彗星・方言〕	
アマヌカワ 〔銀河・方言〕	
参星 〔オリオン座の一部・方言〕	
商星 〔サソリ座・方言〕	

表 5 地域の伝承に詳しい方への聞き取り

聞き取り内容 〔関連事項〕	調査対象
「月と太陽」という昔話がある。(岩倉市郎 1974 日本昔話記録 12 鹿児島県喜界島昔話集 三省堂) 〔月、太陽・伝承〕	喜界町 (64 歳)
「アモレウナグ」(天女伝説)は七夕に関連する話を含め、3パターンほどある。 〔七夕・伝承〕	
プレアデス星団(すばる)を「プリプシ」と呼んでいた。「プリ」には、「多い・たくさん」という意味がある。 〔方言〕	
物語が、島唄の中で唄われることも多い。「アモレウナグ」もその1つ。 〔七夕・民謡〕	

喜界島では、文献から伝承4話、方言15語、行事1つの資料を得ることができた。

また、地域の伝承文化に詳しい方からは、伝承2話、方言1語、民謡1曲の情報を得ることができた。

町の職員で唄者をしている方からは、七夕に通じる唄として「らんかん橋」、歌詞に星がでてくる唄として「小野津八月踊り」の民謡2曲の情報を得ることができた。

漁師への聞き取りでは、86歳の漁師に取材したが、情報は得られなかった。

喜界島サンゴ礁科学研究所での聞き取りでは、人類学とプラネタリウムを組み合わせた「アンソロポリウム」という活動についての情報を得ることができた。これは、各地域の文化をとおして天文現象や星空を紹介する試みで、喜界島では、民話をもとにシナリオを作成して、サンゴ礁と星空をつなぐプラネタリウムを上映している。

④ 奄美大島 (令和6年9/25～9/27実施)

奄美大島の瀬戸内町では、瀬戸内町立図書館・郷土館において文献からの資料収集及び職員からの聞き取り調査を実施した。

また、宇検村では、生涯学習センター「元気が出る館」図書室において文献からの資料収集及び職員への聞き取り調査を実施した。

調査結果を表6、表7、表8、表9に示す。

表 6 瀬戸内町において文献から収集した資料

資料名 [関連事項]	引用文献
タナバタアムィ [七夕・伝承]	田畑千秋 (2005) 南島文叢書 23
アモロヲウナグ [七夕・伝承]	奄美大島の口承説話－川畑豊忠, 二十三夜の語り－ 第一書房
アムィン コラ [天の川・方言]	
太陽と月の始まり [太陽、月・伝承]	山下欣一 他 (1986)
天人女房 (七夕型) [七夕・伝承]	南島昔話叢書 2 大和村の昔話 同朋舎出版
七夕 [行事]	西古見慰霊碑建立 実行委員会 (1994) 西古見集落誌
七夕祭 [行事]	坂井稲英 (1880) 古さとを語る 瀬戸内町教育委員会
山川観音丸 (古仁屋) [サソリ座・伝承]	
天人女房 (1) (古仁屋) 天人女房 (2) (池地) [七夕・伝承]	登山修 (1983) 南島昔話叢書 1 瀬戸内町の昔話 同朋舎出版
天人女房 (3) (池地) 天人女房 (4) (薩川) [七夕・民謡]	
ヒジャマ (火の玉) の話 [流星・伝承]	登山修 (1978) 蘇刈民俗誌 瀬戸内町教育委員会
アモロマンジョ (天女) のこと [伝承]	
ネィヌファブシ [北斗七星・方言]	
フナカタブシ, 山川観音丸 [サソリ座・方言]	
オーコブシ (天秤棒星) [サソリ座の三星・方言]	
早星, サケヨイボシ [アンタレス・方言]	
ネィブブシ (柄杓星) [北極星・方言]	登山修 (2000) かごしま文庫 63 奄美民俗雑話 春苑堂出版
ユナハミティブシ (夜中の三星) [オリオン座の三星・方言]	
アムィンクラゴー [天の川・方言]	
アムィンクラブシ (天の川星) ミョウトゥブシ (夫婦星) [アルタイル, ベガ・方言]	
ユーグレブシ (夕暮れ星) ユアケブシ (夜明け星) ムィティクムブシ (水汲み星) [金星・方言]	

ブレブシ (群れ星) [プレアデス星団・方言]	
星がまたたけばよい天気ではない。 [伝承]	大山英信 (2001) 奄美大島瀬戸内町 阿鉄集落の伝承を 訪ねて 紀伊國屋書店梅田 本店
トゥカツキヌ イリユナハ ハツカツキヌ アガリユナハ (十日月が沈むのは夜中, 二十 日月が上がるのが夜中)。 [伝承]	

表 7 瀬戸内町立図書館・郷土館職員への聞き取り

聞き取り内容 [関連事項]	調査対象
チュダマ (人の魂) やヒジャマ (火 の玉) についての伝承がある。ヒジ ャマはケンムンが指先にともした光 であるという話やケンムンのよだれ が青白く光ったものという話がある。 [流星・伝承]	瀬戸内町立図 書館・郷土館 職員

表 8 宇検村において文献から収集した資料

資料名 [関連事項]	引用文献
天人女房 [七夕・伝承]	宇検村教材開発委 員会 (1996)
アモーレの伝説 (田検) [七夕・伝承]	宇検の民話 宇検村教育委員会
天人女房 (生勝) [七夕・伝承]	山下欣一, 有馬秀 子 (1973) 日本の昔話 3 久永 ナオマツ姫の昔話 奄美大島 日本放送出版協会
天んくら星 (部連) [七夕・伝承]	下野敏見 (2012) 鹿児島ふるさとの 昔話 2 南方新社
ツイキ, ツィッキュー [月・方言]	直江光良 (1978) 奄美方言 神戸新聞出版センター
ティダ [太陽・方言]	
ヒジュマ [流星, 火魂・方言]	新庄作雄, 春日正三 (1982) 奄美大島方言の研究 －宇検村芦検方言 の語彙を中心に－ 立正大学「文学部 論叢」第 72 号抜 刷
ブレィブシ [北斗七星・方言]	

表 9 宇検村教育委員会職員への聞き取り

聞き取り内容 [関連事項]	調査対象
宇検村にはコモリ（川の途中で水が溜まり深くなっている場所）が多くあり、そこに天女が降りてきたと言われている。 [七夕・伝承]	宇検村教育委員会職員
阿室に伝わる与湾大親の話は、前半部が天人女房譚となっている。天女が地上に置いて行った子供のうち、長男が与湾大親となり、次男は琉球の王となる話がある。 [七夕・伝承]	

瀬戸内町では、文献から伝承11話、方言16語、行事2つ、民謡2曲の資料を得ることができた。

また、瀬戸内町立図書館・郷土館の職員から伝承1話の情報を得ることができた。

瀬戸内漁協に郷土の伝承文化に詳しい漁師の紹介を依頼したが、見つからなかった。

宇検村では、文献から伝承4話、方言5語の情報を得ることができた。

また、教育委員会の職員から伝承2話の情報を得ることができた。

宇検村漁協に郷土の伝承文化に詳しい漁師の紹介を依頼したが、見つからなかった。

⑤ 屋久島（令和6年10/1～10/3実施）

屋久島では、屋久島町歴史民俗資料館及び屋久島町図書館宮之浦図書室、尾之間図書室において、文献からの資料収集を実施した。また、屋久島町教育委員会社会教育課から紹介していた方に聞き取り調査を実施した。

調査結果を表10、表11に示す。

表 10 文献から収集した資料

資料名 [関連事項]	引用文献
天の川と七夕姫（安房） [七夕・伝承]	下野敏見（2005） 屋久島の民話シリーズ 屋久島の民話 緑の巻 南方新社
お天道さまの嫁（尾之間） [太陽・伝承]	

菊女ガ松（尾之間） [十五夜・伝承]	下野敏見（2006） 屋久島の民話シリーズ
二十三夜さま（楠川） [二十三夜・伝承]	屋久島の民話 紅の巻 南方新社
中秋の名月「十五夜綱引きの謎」 [十五夜・行事]	下野敏見（2006） 屋久島、もっと知りたい 人と暮らし編 南方新社
月に祈り、日の出を拝む「二十三夜様祭り」 [二十三夜・行事]	下野敏見（2011） 南日本の民俗文化誌4 屋久島の民俗文化 南方新社
夏と盆の行事 [七夕・行事]	
十月の行事 [二十三夜待ち・行事]	
ノンノンサマ（宮之浦） [月・方言]	上屋久町郷土誌編集委員会（1984）
ノノジ（永田）、ヒーロン [太陽・方言]	上屋久町郷土誌 上屋久町教育委員会
ヒサマ（平内、船行） ヒィ、オヒサン（小島） [太陽・方言]	屋久町郷土誌編集委員会（1995） 屋久町郷土誌 第四巻 自然・歴史・民族 屋久町教育委員会
ホシィ（船行） [星・方言]	

表 11 地域の伝承に詳しい方への聞き取り

聞き取り内容 [関連事項]	調査対象
二十三夜様は、集落単位で行う二十三夜の月を拝む行事。月形、日形の餅やカメノテ、トコロ（山芋）などのお供え物を並べ、集落の代表2人が袴を着て、祈りを捧げる。若い船乗りにまつわる話もある。 [二十三夜・行事]	楠川 (81歳)
十五夜の綱引きは、集落毎に唄や内容が違う。旧暦8月15日の茅名月と旧暦9月15日の藁名月に2回綱引きをしていた。 [十五夜・行事]	

屋久島では、文献から伝承4話、方言7語、行事4つの資料を得ることができた。

また、地域の伝承文化に詳しい方から行事2つの情報を得ることができた。

屋久島漁協に郷土の伝承文化に詳しい漁師の紹介を依頼したが、見つからなかった。

2 星空観察会及び出前授業について

(1) 実施期間

令和6年7月5日から令和7年1月20日

(2) 実施校(実施日)

① 星空観察会

日置市立鶴丸小学校(令和6年7月5日)

鹿児島市立中名小学校(令和6年8月26日)

霧島市立国分南小学校(令和6年9月20日)

② 出前授業

瀬戸内町立古仁屋中学校(令和6年12月14日)

屋久島町立岳南中学校(令和6年12月18日)

屋久島町立中央中学校(令和6年12月18日)

屋久島町立安房中学校(令和6年12月19日)

喜界町立喜界中学校(令和7年1月20日)

(3) 授業の実際

① 星空観察会

屋内において、天体の種類や恒星の色、恒星の一生についての紹介、当館で制作している創作星物語(アニメーション)の鑑賞、実施日に観察できる星座や惑星の紹介、星座缶などの工作、各地の星にまつわる伝承文化を紹介する講話を実施した。

その後、屋外に出て、肉眼での星座の確認、双眼鏡を用いた月や星団の観察、望遠鏡を用いた惑星の観察などを実施した。

星空観察会の様子を、図1に示す。



図1 星空観察会の様子

② 出前授業

天体の種類や恒星の色、恒星の一生についての紹介、星にまつわる伝承文化をもとに制作した創作星物語(アニメーション)の鑑賞、実施日に観察できる星座や惑星の紹介、国立天文台の4次元デジタル宇宙ビューワー「Mitaka」を活用し

た宇宙の広がりや観察、各地の星にまつわる伝承文化を紹介する授業を実施した。

出前授業の様子を、図2に示す。



図2 出前授業の様子

3 企画展「鹿博プラネタリウム物語」について

(1) 実施期間

令和7年1月11日から3月23日

(2) 実施場所

鹿児島県立博物館別館 多目的スペース

(3) 実施内容

本企画展は、当館プラネタリウムの歴史や番組制作の行程、星にまつわる伝承文化を紹介することで、当館プラネタリウムや天文分野、郷土の魅力を知る機会とする事を目的として実施した。

本事業に関する内容としては、過去に収集した伝承文化やそれをもとに制作した創作星物語の紹介、本事業で新たに収集した伝承文化を紹介した。

企画展の様子を図3に、作成したパネルのうち、本事業に関連したパネルを図4、図5、図6に示す。



図3 企画展の様子

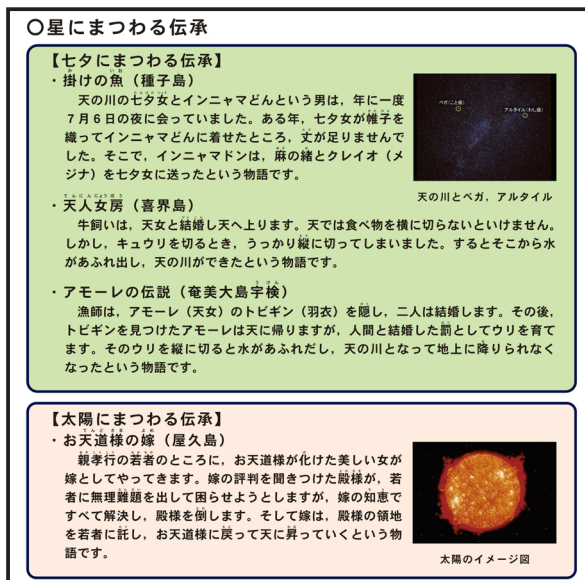


図4 本事業で収集した伝承の一部

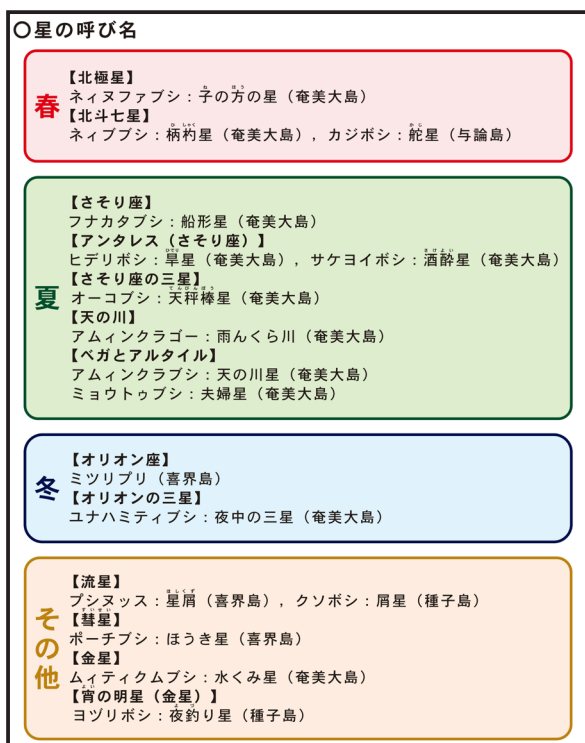


図5 本事業で収集した方言の一部

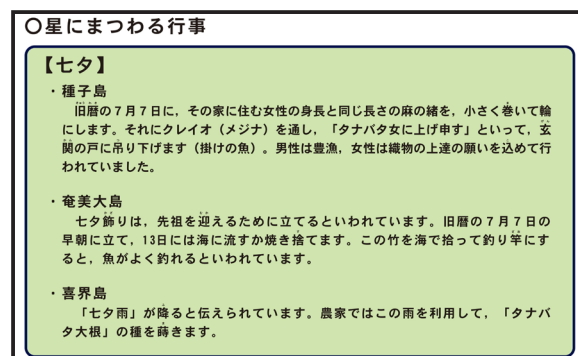


図6 本事業で収集した行事の一部

まとめ

1 星にまつわる伝承文化の収集について

本事業では、5つの島から伝承 35 話、方言 49 語、行事 13、民謡5曲の資料を得ることができた。

(1) 伝承について

収集した 35 話中、七夕に関する内容が 21 話と最も多く、その他は太陽や月、流れ星、十五夜、二十三夜に関する伝承であった。

七夕に関する 21 話のうち、17 話が「羽衣伝説」につながる話だった。これらの話は、内容の大筋は共通しているのだが、所々違いが見られる。

例えば、天女（織姫）は、無くしていた羽衣を見つけ、子どもとともに天に上る。その後、天にいる天女や子どもと会うために、漁師（牽牛）が天に上るのだが、その方法が各地で異なっている。奄美大島の大和村では竹、瀬戸内町では冬瓜のつる、宇検村の阿室ではカボチャのつる、屋久島ではヘチマのつるを上って天にたどり着く。また、宇検村の田検では、天から綱が下りてきてそれを上ったり、喜界町では天女が漁師を抱えて天に連れて行ったりする。

このように、地域の風土や信仰による違いが見られ、これらの話をプラネタリウム番組で紹介することにより、その地域の歴史や風習の一端を知ることができる。

また、七夕と「羽衣伝説」が結びついた伝承については、これまでも数話資料として保管しており、何度かプラネタリウム番組で取り上げてきたが、地域ごとの内容の分析や比較はされてこなかった。今回収集した 17 話を含めて、今後内容の分析や比較を行っていきたい。

(2) 方言について

収集した 49 語中、サソリ座（アンタレス含む・夏）についての方言が7語、オリオン座（冬）についての方言が5語、プレアデス星団（スバル・冬）についての方言が4語、北斗七星（春）についての方言が3語であった。どの星座や星も、明るくよく目立つ、季節に代表されるものであり、各地域で固有の呼び名があるのも頷ける。今回の調査では、秋の星座や星についての方言を収集する事ができなかった。

日本各地の星の呼び名をまとめた「日本の名事典」（北尾，2018）において、本県で収集した星の呼び名も数多く紹介されている。今回の事業で収集した方言と重なる部分もあるため、本県の星にまつわる方言として整理してまとめたい。

(3) 行事について

収集した13の資料のうち、十五夜に関する内容が6つ、七夕に関する内容が4つ、二十三夜に関する内容が3つであった。十五夜と七夕は、全国的に行われている行事であり、本県でもさまざまな地域で行われているが、地域による違いが見られるため、今後内容の分析や比較を行っていききたい。

(4) 民謡について

収集した5曲のうち、七夕に関する曲が4曲となっており、そのうちの3曲が天女伝説の物語を唄にした口説きや子守歌であった。本県には、多くの民謡が唄い継がれている。今回は伝承や方言、行事についての調査に重点をおいて調査したため、民謡については調査が不十分であった。今後、改めて民謡についても調査していききたい。

(5) 全体を通して

今回の資料収集では、これまで当館が把握できていなかった資料を多く得ることができた。これは、以前の収集以降に出版された文献や、その地域の図書館にしか保管されていない資料などを調査することができたからである。

地域の伝承に詳しい方や漁師からの聞き取りからは、思ったほど情報を得ることができなかった。伝承文化に詳しい方々からは、星に注目して、伝承文化について考えたことがなかったというご意見をいただいた。また、漁師からは、星を目印にして航海した経験がある方はもういないのではないかとご指摘を受けた。聞き取りから得られる情報は少ないかもしれないが、聞き取りをとおして、伝承文化が生まれた背景を知ることができるので、今後も、各地域に住む方々への聞き取りを続けていきたい。

喜界島サンゴ礁科学研究所において紹介されたアンソロポリウムでは、島民が星にまつわる伝承文化を取材し、シナリオを作成するとともに、移動式プラネタリウムの投影に合わせて、星空解説を実施している。まさに、郷土に根ざしたプラネタリウムを地域で実施しているという点で、非常に興味深い取り組みである。県内各地域で、このような取り組みが行われることで、星にまつわる伝承文化のより細やかな調査ができると考えられる。

2 星空観察会及び出前授業について

星空観察会や出前授業を行った学校の先生方との事前打ち合わせの中で、「普段からきれいな星空を見ることができるにもかかわらず、子どもたちはほとんど星空を眺めていない。これを機会に、星空を眺めるようになって欲しい。」という声が多く上がった。

星空観察会や出前授業で知ったことを夜空を眺めて確かめたいと思えるような内容であり、星にまつわる伝承文化の紹介をとおして、自分たちの住む地域の風土や慣習などについて知り、郷土に興味をもてるような内容となるよう工夫して星空観察会、出前授業を実施した。

今後も、本事業で収集した資料を活用しながら、星空を身近に感じられる機会となるように星空観察会や出前授業を実施していききたい。

3 企画展「鹿博プラネタリウム物語」について

これまで、星にまつわる伝承文化を紹介する機会が、プラネタリウム番組と星空観察会しかなく、毎回わずかな内容しか紹介できなかった。しかし、今回約3か月にわたり、企画展として実施できたことで、多くの来館者に、自分たちが生まれ育った郷土に星にまつわるさまざまな伝承文化があることを知っていただく良い機会となった。

さいごに

本事業をとおして、把握できていない星にまつわる伝承文化が多く眠っていることがわかった。今回収集できたのはほんの一部であり、まだまだ多くの地域で資料収集が実施できていない。今後も継続して資料収集を実施することで、1つでも多くの伝承文化を収集し、当館の教育活動をとおして紹介していききたい。

謝辞

なお、今回の調査において、西之表市教育委員会社会教育課、中種子町教育委員会社会教育課、南種子町教育委員会社会教育課、屋久島町教育委員会社会教育課、宇検村教育委員会事務局、瀬戸内町立図書館・郷土館、喜界町教育委員会生涯学習課に取材協力をしていただいた。深く感謝する。

参考文献

北尾浩一(2018)日本の星名事典
株式会社原書房 東京